



**2021年3月期 第1四半期
決算補足説明資料**

2020年7月31日（金）

**ウェーブブロックホールディングス株式会社
証券コード：7940
（東証一部）**

決算概要

(単位：百万円)

	2020年3月期 第1四半期 (実績)	2021年3月期 第1四半期 (実績)	前年同期比 増減	前年同期比 増減率	第2四半期 予想 進捗率	通期予想 進捗率
売上高	7,881	7,756	△ 124	△1.6%	55.4%	26.7%
営業利益	721	664	△ 57	△8.0%	78.1%	41.5%
経常利益	703	657	△ 45	△6.5%	78.3%	41.6%
親会社株主に帰属する 当期純利益	477	448	△ 28	△6.0%	81.6%	44.9%
1株あたり 当期純利益 (円) ¹	50.11	46.52	-	-	-	-
EBITDA ²	972	908	-	-	-	-

1. 発行済株式総数から自己株式等を控除した期中平均株式数により計算しています。期中平均株式数は、2020年3月期第1四半期は9,533,290株、2021年3月期第1四半期は、9,649,909株です。

2. EBITDA = 営業利益 + 減価償却費

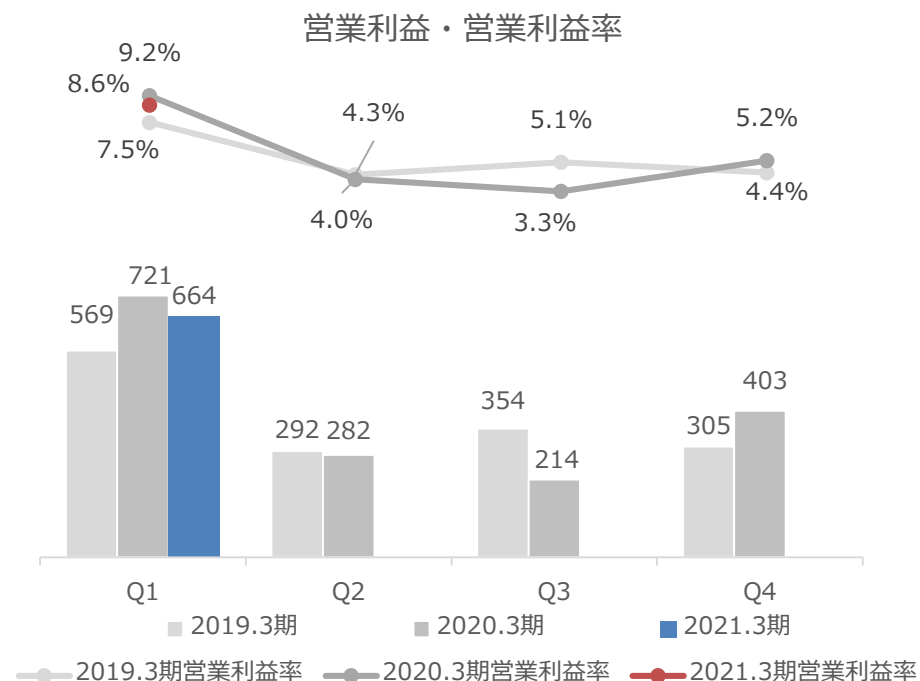
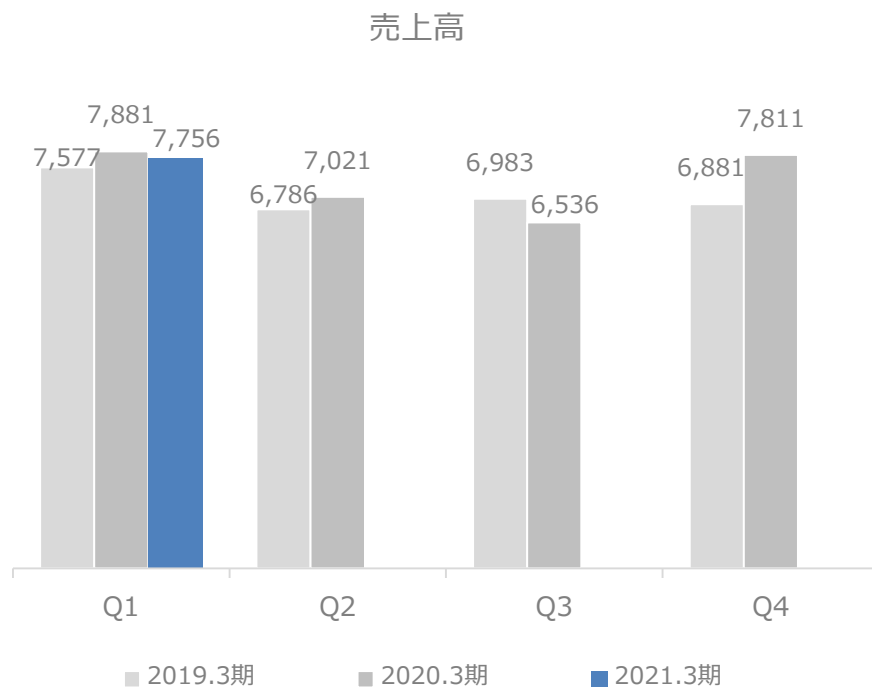
売上高 7,756百万円

- 新型コロナウイルス感染拡大等の影響から、自動車関連向けや建設関連向けを中心にかなりの苦戦を強いられたが、感染対策関連製品の販売好調もあり、グループ全体では、期初想定通り、前期並みの売上高に着地（前年同期比△1.6%）
- 前年同期のマテリアルソリューション事業において、『期ズレ』の売上高（買い手の都合により、期をまたいでの売り上げになること）が例年よりも大きかったことも、対前年同期比がマイナスになった要因の1つ

営業利益 664百万円

- 前年同期比8.0%のマイナスながら、上期計画の進捗度は78.1%を達成
- 新型コロナウイルス感染拡大等に端を発する原油価格、ナフサ価格の下落が、当社製品の主要材料である樹脂材料価格に本格的に反映されるまでには半年ほどのタイムラグ
- 今期収益の重要ポイントは、上期においては、新型コロナウイルス感染拡大の悪影響を最大限に抑え、下期においては、材料価格下落局面での適切な対応

単位：百万円



- 新型コロナウイルス感染拡大の影響は受けながらも、グループ全体の売上高および営業利益は前年同期から大幅な落ち込みもなく、期初想定範囲内で推移
- マテリアルソリューション事業が、前期に新たに導入し、会計処理上、第3四半期のみ引当計上（約75百万円）し、同四半期の営業利益の落ち込みの主要因の1つとなった従業員のインセンティブプランは、今期より四半期毎に業績に基づき引当計上を行う仕組みに変更

■ 第1四半期における新型コロナウイルス感染症の影響

- 事務部門、営業部門でのテレワークの徹底、生産部門での『ゾーン分け』等の徹底、社内事業所間の移動禁止や出張制限を含む各種対策を実施。結果、社内に感染者を出すことも、大きな混乱もなく事業を継続
- 建設工事の中断、自動車メーカーの工場操業停止、農業分野での投資意欲の減退等の影響を受け、一部の製品分野では売上高が大幅に減少
- 一方、透明ビニールシートに代表される新型コロナウイルス感染対策製品に特需が発生。また、外食機会消失の反動等で売上が伸びた食品包装容器向けシート販売や、いわゆる『巣籠り需要』が発生したホームセンター向け製品の販売が好調に推移
- グループ全体の業績としては、事業対象市場が分散していることが功を奏し、概ね期初想定通り
- 目先の業績以上に重要な経営課題は、『ウィズ・コロナ』、『ポスト・コロナ』に対応した事業の変革と認識
- 通常であれば、10年以上を掛けて起こるであろう社会変革が、数ヶ月という短期間に起こっている新型コロナウイルス感染拡大に伴う『パラダイムシフト』に対して、いかに的確に、素早く、自己改革出来るかが最も重要なポイント

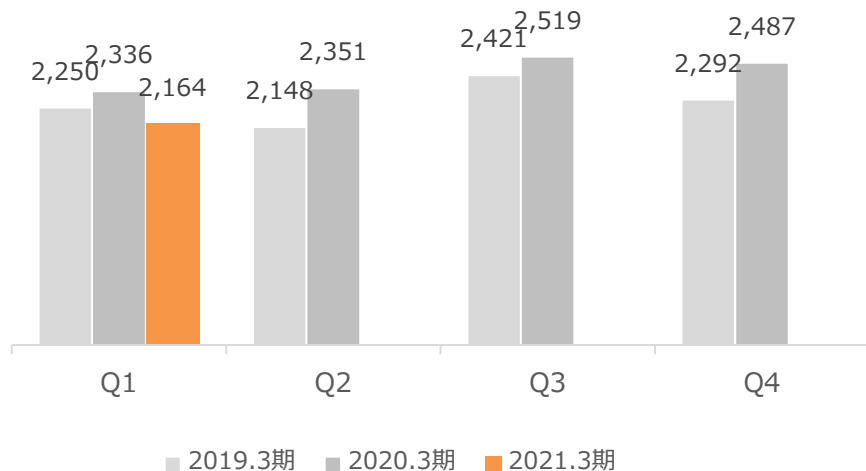
セグメント別情報

(単位：百万円)

	2020年3月期 第1四半期 (実績)	2021年3月期 第1四半期 (実績)	前年同期比 増減	前年同期比 増減率
売上高	7,881	7,756	△ 124	△1.6%
インタリア	2,336	2,164	△ 171	△7.3%
マテリアルソリューション	4,817	4,757	△ 59	△1.2%
アドバンステクノロジー	840	934	+94	+11.3%
その他	△ 112	△ 100	-	-
営業利益	721	664	△ 57	△8.0%
インタリア	220	199	△ 20	△9.4%
マテリアルソリューション	558	594	+36	+6.5%
アドバンステクノロジー	74	3	△ 71	△95.8%
その他	△ 132	△ 133	-	-

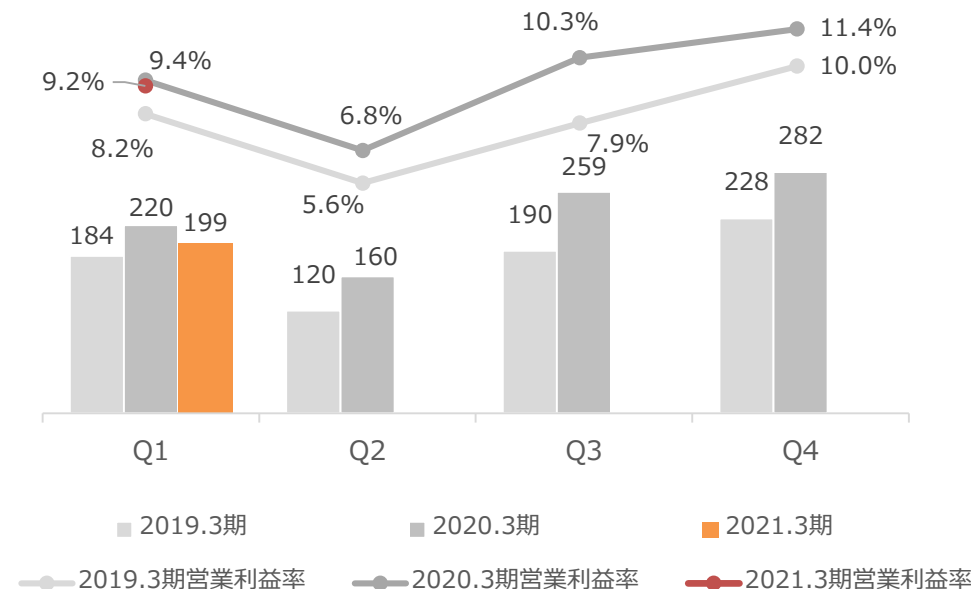
セグメント概況（インテリア事業）

売上高



営業利益・営業利益率

単位：百万円

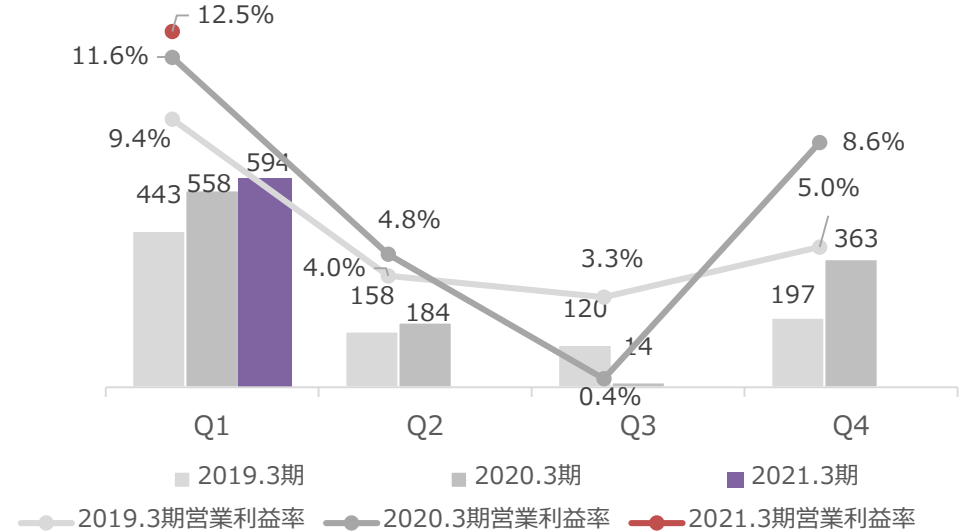
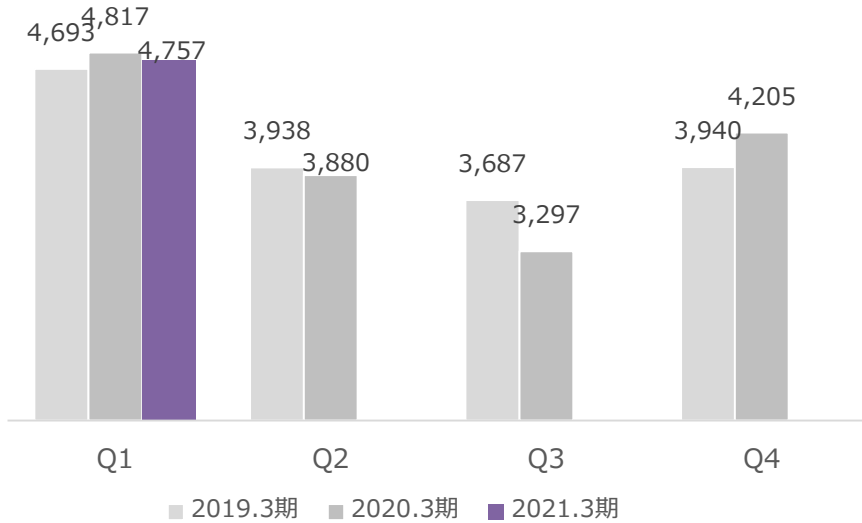


- 2020年4～5月における塩化ビニル樹脂系壁紙業界の出荷数量は、新型コロナウイルス感染症の影響により前年同期比89%と低調に推移したが、壁紙業界シェアトップである（株）サンゲツとの従前からの取り組みもあり、2020年4月～6月の同社向け販売数量は前年同期比94%と、最小限の落ち込みに
- （株）サンゲツ向け売上高（金額ベース）は前年同期比91%。相対的に利益率の高い中級品の売上高が前年同期比80%と大きく落ち込んだが、機能量産品壁紙が市場に浸透したことにより量産品の販売が堅調に推移
- 2020年4月1日からの売値下げ前の旧価格での受注残があったこと、および、生産工程計画にフォーカスした収益改善努力等の成果により営業利益率は前年同期並みに（前年同期:9.4%、今期:9.2%）

単位：百万円

売上高

営業利益・営業利益率



リビングソリューション：

- 新型コロナウイルス感染拡大を背景にした『巣籠り需要』や換気意識の高まりにより、ホームセンター向けの家庭用農園芸製品や、張替用防虫網が大きく伸長。サッシメーカー向けの防虫網も堅調に推移

ビルディングソリューションおよびインダストリアルソリューション：

- 飛沫感染防止用透明ビニールシートの売上高は前年同期比約3倍と大幅増加。今後は、飛沫感染防止用に応急処置的に使用されている可燃性透明ビニールシートを、防災規格合格品や高透明不燃シートに置き換えることに注力
- 一方、建設工事の中断や各種イベントの中止等により、関連製品の販売が大幅に減少。建設関連は、工事再開により回復基調にあるものの、流通在庫解消までには今しばらくの時間が必要

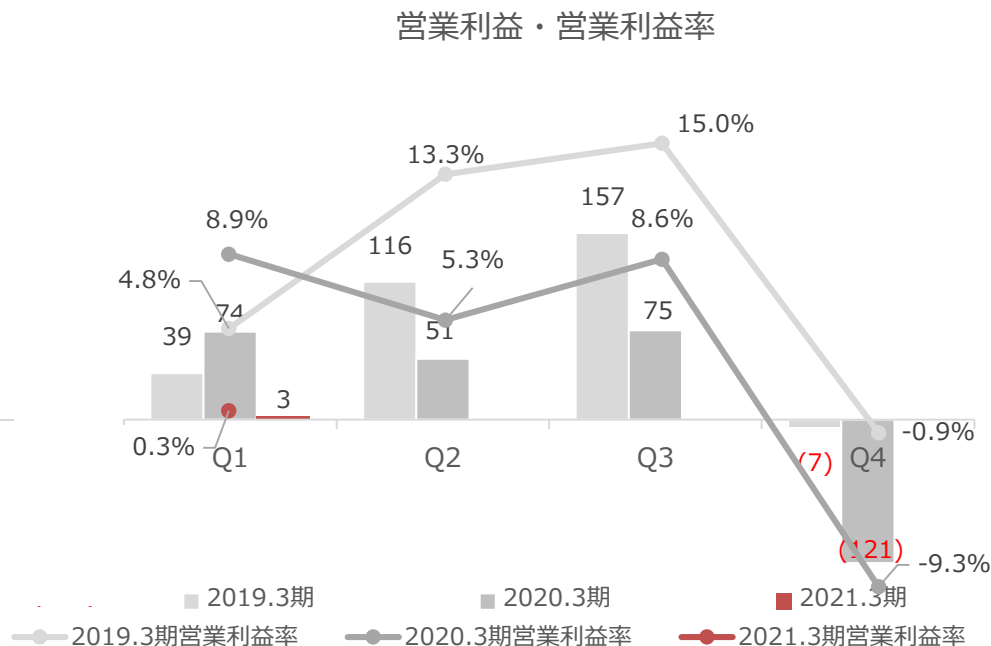
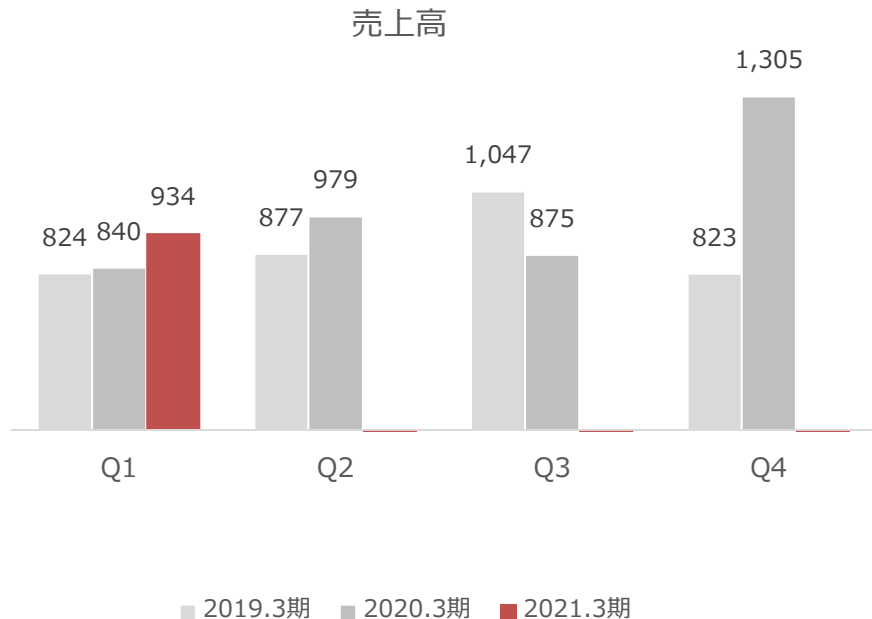
パッケージングソリューション：

- テイクアウト需要等により食品包装容器向けシートは堅調。一方、ミルクポーションは飲食店需要の大幅減少から苦戦

アグリソリューション：

- 飲食店の営業自粛による農作物の需要減少や経済の先行き不透明感から、農家の投資意欲が後退。当社の販売にも影響。天候不順や自然災害の影響も今後の懸念材料

単位：百万円



金属調加飾フィルム：

- 中国自動車市場における売上高は、新型コロナウイルス感染状況の改善や中国政府の支援策により、前年同期比プラスまで回復。一方、国内、欧米、インド、東南アジア市場においては、自動車メーカーの工場操業停止等の影響を受け、売上高は大幅に減少。ただし、案件立ち上がりの遅れや販売数量減少等はあるものの、中国以外の市場でも復調傾向に

PMMA/PC2層シート：

- 売上高、営業利益ともに前期を大幅に下回り、営業利益はマイナスで着地
- スマートフォン筐体向けについては、競合メーカーとの競争激化、前期の品質トラブルの後遺症もあり、今後も苦戦の見通し
- 一方、相対的に利益率の高い車載向けの販売は、新型コロナウイルス感染拡大の悪影響はあるものの、比較的堅調に推移

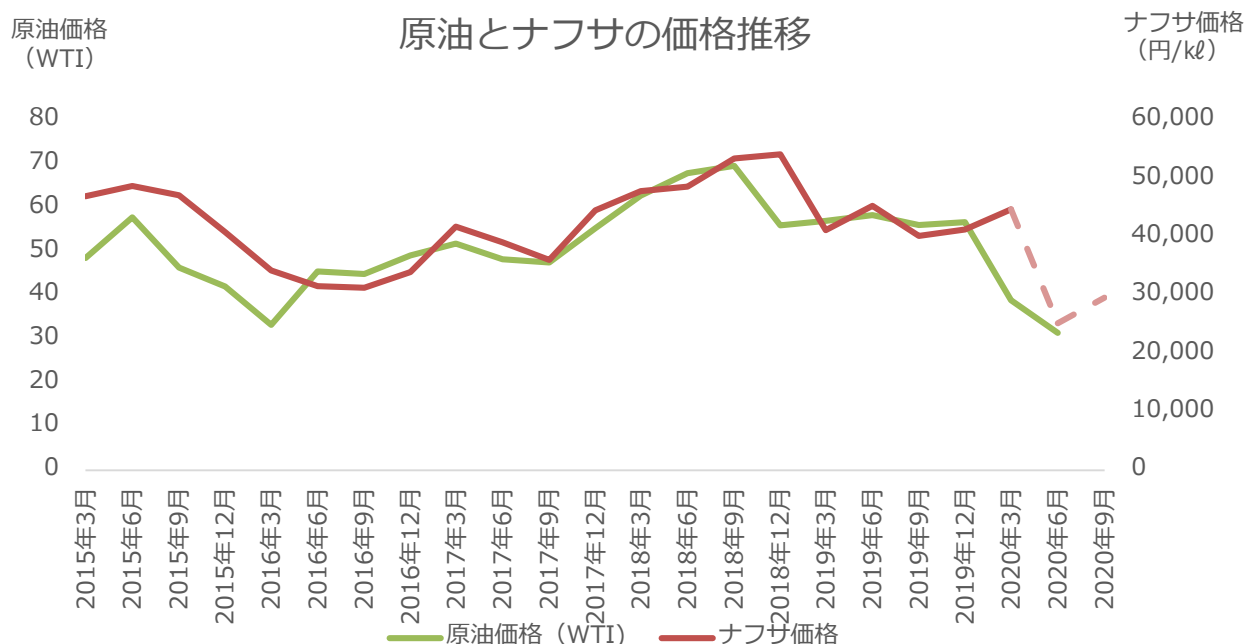
その他：

- ディスプレイ用拡散版は、前期第4四半期に引き続き好調に推移。また、新型コロナウイルス感染対策品として新たに始めたマスクやフェイスガード等、『安全・安心』をテーマに、社会に必要とされる製品の供給に注力

今後の見通し

新型コロナウイルス感染拡大は予断を許さない状況ながら、通期予想は売上高、営業利益ともに期初計画を据え置く。据え置きに至る主たる前提は、

- ① 『1つの要因に過剰に依存しない』というポリシーのもと、対象市場の多角化を意識した事業展開を行って来たことが、コロナ禍においても『耐性の強さ』という結果になっており、グループ全体の大規模な売り上げの減少は想定していない
- ② 2020年1月～3月の国産ナフサ価格の平均値44,800円/kℓをベースに、今期事業計画を45,000円/kℓで作成したが、2020年4月～6月の実績値は25,000円/kℓ前後まで下落。従って、第2四半期以降は樹脂材料価格の低下が見込まれるが、今後の景気動向の不透明感も考慮し、見通し数値には織り込んでいない



本資料における見通しは、本資料作成時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、今後の事業環境の変化により実際の業績が異なる可能性があります。
本資料に記載されている内容・写真・図表等の無断転載を禁止します。